

ワークショップ**■** 2026年10月18日(日) 9:00～10:30 | **■** 第5会場**[WS] ワークショップ「余命半年から考える価値観—もしバナゲーム体験ワークショップ」**

座長:栗谷 和典(共和メディカル株式会社 薬局事業部 部長), 加井 真由美(共和メディカル株式会社 薬局事業部 次長)

[WS-1] 薬剤師が「もしバナゲーム」をする意義について考える～「選択の痛み」を知ること
で変わる、患者への眼差しと対話の質～

金丸 達哉 (共和メディカル株式会社 関西薬局井高野店 店長・管理薬剤師)

[WS-2] 余命半年から考える価値観—もしバナゲーム体験ワークショップ

前田 章子 (キョーワメディカルケア株式会社 在宅推進部 あかり訪問看護ステーショングローバルビレッジ津
雲台出張所 看護師)

ワークショップ

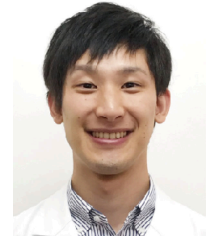
2026年10月18日(日) 9:00 ~ 10:30 | 第5会場

[WS] ワークショップ 「余命半年から考える価値観—もしバナゲーム体験ワークショップ」

座長: 栗谷 和典(共和メディカル株式会社 薬局事業部 部長), 加井 真由美(共和メディカル株式会社 薬局事業部 次長)

[WS-1] 薬剤師が「もしバナゲーム」をする意義について考える～「選択の痛み」を知ることによって変わる、患者への眼差しと対話の質～

金丸 達哉 (共和メディカル株式会社 関西薬局井高野店 店長・管理薬剤師)



近年、調剤報酬においてもACP（アドバンス・ケア・プランニング）の言葉が明示され、薬剤師も患者の意思決定支援を強く意識するようになった。しかし、終活やエンディングノートといった「家族との話し合い」の領域は、どこか薬剤師の立場では専門外だと感じていた面も否めない。日々、処方箋という「決定事項」に至るまでに、患者がどのような葛藤を抱え、何を諦め、何を選択してきたかというプロセスにまで思いを馳せる機会は少なかったのではないだろうか。このように薬剤師に欠けていた「選択の重み」への想像力を補うことこそが、本ゲームを体験する第一の意義である。

私たち薬剤師は、麻薬の投与量や全身状態から「予後」をある程度イメージするかもしれない。しかし、もし今日、自分が余命を告げられたらどうだろうか。薬剤師として薬の副作用は予測できても、自分の心の揺らぎを止めることはできない。もしバナゲームを通じて「限られた選択肢から何かを捨て、何かを選び取る苦渋の決断」を疑似体験することは、患者の孤独な状況を理解する強力な助けとなる。「そんな時、どんな薬剤師にそばにいてほしいか？」という問いを自分に投げかけることで、単なる薬の指導者ではなく、人生の優先順位を整理する痛みの最中にいる患者へ、深い共感をもって接することができるようになる。本体験は客観的な「予後」から、主観的な「生き方」への視点転換をもたらすと考える。

ゲーム体験後のコミュニケーションは、正論での解決から、患者の価値観への「共感と伴走」へと変化する。答えを急がず、患者の「揺らぎ」を否定せずに共有できる関係性こそが、真の服薬アドヒアランスを生む土台になると考える。さらに、この思考法は多職種連携においても患者の「選択の背景」を薬剤師が言語化し、「家族との時間を優先するため、眠気の強い薬剤は避けたい」といった価値観に基づく処方提案を行うことで、チーム全体で「生活者としての患者」を支えることが可能となる。

薬剤師がもしバナゲームをする意義は、スキルの習得だけではない。患者を「薬を渡す対象」ではなく「悩みながら選択し続ける一人の人間」として見直す視点を得ることにある。患者の葛藤に寄り添い、その「選択の痛み」を分かち合おうとする姿勢こそが、これからの対人業務において信頼される薬剤師の資質になると考える。

【略歴】

2016年3月 京都薬科大学 卒業
 2016年4月 パナソニック健康保険組合 松下記念病院 薬剤部 入職
 2018年4月 共和メディカル株式会社 関西薬局住之江店 入職
 2021年1月 共和メディカル株式会社 関西薬局布施店 店長・管理薬剤師
 2022年9月 共和メディカル株式会社 関西薬局井高野店 店長
 2023年9月 共和メディカル株式会社 関西薬局井高野店 店長・管理薬剤師（現職）

所属学会等 日本薬剤師会 日本薬局学会

ワークショップ

2026年10月18日(日) 9:00 ~ 10:30 | 第5会場

[WS] ワークショップ 「余命半年から考える価値観—もしバナゲーム体験ワークショップ」

座長:栗谷 和典(共和メディカル株式会社 薬局事業部 部長), 加井 真由美(共和メディカル株式会社 薬局事業部 次長)

[WS-2] 余命半年から考える価値観—もしバナゲーム体験ワークショップ

前田 章子(キョーワメディカルケア株式会社 在宅推進部 あかり訪問看護ステーショングローバルビレッジ 津雲台出張所 看護師)

本ワークショップでは、人生の最終段階において何を大切にするかを考えるカードゲーム「もしバナゲーム」を用い、参加者が自身の価値観を言語化するとともに、他者の価値観に触れる機会を提供することを目的とした。もしバナゲームはアメリカで作られ、日本では亀田総合病院の医療者らによって導入され、独自の形で普及してきた。

演者は友人の紹介をきっかけに本ゲームのワークショップに参加し、その意義に共感したことからマイスター資格を取得した。実践を重ねる中で、本ゲームは看護師に限らず、多職種や一般の人々にも広く共感を得られることを実感した。さらに、大学生を対象に実施した際には、参加者が自身の価値観を言語化する難しさに直面するとともに、他者との価値観の違いに気づく貴重な機会となり、その重要性が示唆された。

当社は薬局部門と訪問看護部門を有しており、日常的に多職種で連携しながら地域医療に取り組んでいる。そのような背景のもと、両部門が連携し、本ゲームの特性を活かしたワークショップを薬剤師へ展開することとなった。

医療現場においては、患者一人ひとりの価値観を尊重した関わりが求められるが、日常業務の中で自身の価値観を深く見つめ直す機会は多くない。また、他者の価値観を知る経験も限られているのが現状である。そこで本ワークショップでは、主に薬剤師を対象とし、看護師がファシリテーターとして進行する。

参加者は「余命半年」と仮定された状況の中で、自身にとって重要な価値観を選択し、その理由を共有する。さらにグループ内での対話を通して、他者との価値観の違いや共通点に気づくことを促す構成とした。

参加者が自身の価値観を明確にするだけでなく、他者の価値観を尊重する視点を養うことが期待される。特に薬剤師においては、服薬指導や患者対応の場面で、患者の背景や思いに寄り添う姿勢が重要であり、本ワークショップはその実践につながる示唆を与えるものとする。多職種間における価値観共有の重要性を再認識し、対人支援の質の向上に寄与することを目指す。

【略歴】

2000年 川崎医療福祉大学卒業。看護師・保健師免許取得。

2000年 淀川キリスト教病院に入職し、臨床経験を積む。クリニック勤務を経て介護支援専門員資格を取得。

2014年 キョーメディカルケア株式会社に入職。訪問看護に従事する。

2018年 もしバナマイスタープログラムを受講し、もしバナマイスターを取得、現在に至る。